

南高 同窓会会報

発行所
四日市市大字日永字岡山
三重県立四日市南高等学校
同窓会
TEL.059-345-3177
www.4nan.jp/dousou/



会長 早野憲一郎

同窓会の皆さまには、日ごろから母校に対して多大なるご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

本校は、今年度60周年を迎え、今年の4月に入学した皆さんは南高校60期生になります。この60年間で、日本社会は大きく変わりました。

60年前、第1期生が南高校の門をくぐった頃の日本は、高度成長期まつただ中でした。その後、バブル景気やリーマンショックなど、景気の大きな変動を経験し、経済だけでなく、人も物も社会も変化しました。そんな変化の中でも南高校が60年にわたり、卒業生を社会に送り出してきたことは非常に誇らしいことであると思います。

高校を卒業し、一気に社会が広がったことは皆さんの記憶にも残っていることと思います。どんな時代でも、めまぐるしく変化する社会についていくのが大変だと感じたこともあるのではないのでしょうか。

多くの人は年齢を重ねるにつれ、変化を嫌い、頑なになってしまいがちですが、様々な経験を重ねたことによる自信と強さを持ち合わせています。若い人は経験の少なさから不安が行く手の邪魔をしてしまうこともあるでしょうが、柔軟な心で変化に対応していく力を持っています。一筋縄ではいかならない今の日本社会を生き抜くためには、強さと柔軟な心の両方が必要であると思います。若い人は先輩から知恵を拝借し、年長者は若い人から柔軟さを取り戻していくことができれば少し気が楽になるのではないのでしょうか。

と、言っても世代を超えた交流は簡単にできるわけではありません。しかし、60年の歴史を持つ南高校の同窓会には、年齢を超えた縦のつながりがすでにできていま



ご挨拶

学校長 加藤幸弘

緑あつて、本年度より、四日市南高等学校長を拝命しました。本年度六十年目を迎える歴史と伝統ある本校に赴任し、大きなやりがいとともに、身の引き締まる思いでいます。

四日市南高等学校は、「高い志と豊かな人間性を育てる」ことを柱にして、学業とともに、学校行事・部活動・生徒会活動・ホームルーム活動・人権学習・キャリア教育等を大切にして、コミュニケーション力・向上心・思いやりなど、社会で必要とされる力を育み続けてきました。このことが、近年の「高大接続改革」の流れの中

す。この歴史ある南高校の同窓会の絆をさらに強くして、どんどん活用していただきたいと思っております。イギリスの自然学者、ダーウィンの名言に、「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残

で、あらためて注目を集めています。

現高校一年生が受験する二〇二一年度入試から、大学入試の制度が大きく変わります。三十一年間続いた「大学入試センター試験」は「大学入学共通テスト」へと改まり、思考力・判断力・表現力が一層重視されて、国語と数学で記述式問題が導入されます。英語では、四技能(読む・聞く・話す・書く)を適切に評価するため民間試験が活用されるようになります。また、国公立大学での推薦入学等の割合が、現在の二倍以上の約三割となる方向です。これは、すべて、ペーパーテスト中心の入試から、志や人間性がより大きく問われる入試へと、改革が行われることを意味します。こうした方向への変化は、現一年生を待たずして、すでに始まってきています。改革の背景に、これらにより強く求めるようになった昨今の社会の変化があることは論を待

ることが出来るのは、変化できる者である。」と、あります。これからも絶えず変化する日本社会で、同窓生のつながり、人と人とのつながりを大切にしながら、強く柔軟に生きていけたらと思います。最後にになりましたが、会員の皆さまの今後一層のご健勝とご活躍

を心からお祈り申し上げますと同時に、南高校同窓会のさらなる発展に向けて、ご支援ならびにご協力をお願い申し上げます。

ちません。

四日市南高等学校は、近年、言語活動の充実に向けた授業改善とともに、「四日市あすなろう鉄道を考える会」をはじめとする多くの地域関係機関との連携のもと、議論したり発表したりすることを通じて一人ひとりのコミュニケーション力やプレゼンテーション力を高める主体的・協働的・探究的な学びを充実させてきました。これらは誠に時宜を得たものとして、本校の伝統がますます輝くものになることにつながっています。

この間、同窓会の皆様には、物心両面にわたり心温まるご支援をいただき続けており、あらためて厚く感謝申し上げます。登城ヶ丘の学び舎が四日市南高等学校がますます充実・発展するよう、教職員一同引き続き勤めて参りますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

を心からお祈り申し上げますと同時に、南高校同窓会のさらなる発展に向けて、ご支援ならびにご協力をお願い申し上げます。

OB Lecture OB講演会

2年生を対象に様々な職業の同窓生による講演会が行われました。

平成30年7月9日

日本旅行株式会社四日市営業所 曾根尚次氏(26期)

「10000円の旅 1000万円の旅」という演題でお話しいただきました。

まずはご自身についてのお話。南高時代や旅行会社に入った理由、入社後の体験などです。理由の一つは「英語が使える仕事をしたい」とのこと。勉強や部活動など学校での経験・失敗が仕事の上で役に立つとも話されました。次いで「満足できる10000円の旅と100万円の旅」。実例を挙げ、満足できるかどうかは金額ではなく、希望が満たされたかどうかできまるといっていました。

最後にご自身の「こだわり」でもある、「相手の話を聴く／相手が喜ぶことをする／相手の役に立ったかどうか考える」ことを、生徒に伝えていただきました。

ジブラルタ生命保険株式会社 名古屋支社名古屋第一営業所所長 吉田温美氏(26期)

外資系生命保険会社の営業所所長 吉田さんから「目的と目標とは」というテーマで講演頂きました。まず、「ファイナンシャル

プランナー」の仕事、「外資系企業」の特徴について説明して頂きました。次いで、「目的と目標の違い」、抽象的か具体的かなど、7つの違いを挙げ、「いつまでに・何を・どのくらいするか」という目標設定のポイントを教えて頂きました。

さらに、今、高校で学んでいることで「世界史・日本史」、「数学」、「現代文」が役立つといること、また、プレゼンテーション力が必要で、読書を通じて様々な文章を読んでおくことを薦めて頂きました。



吉田温美氏

ケアプロ

訪問看護ステーション東京 木村直樹氏(48期)

聖路加大学の救急救命センターで五年間働かれた後、訪問看護師として在宅医療に関わってみえる木村直樹さんのお話を伺いました。看護師とはどういう仕事か、向

いている人はどのような人か、そして高校生に伝えたいことという三つの観点からお話を戴きました。御自身の部活動の経験を元に、「自分に素直になること」というお話や、「自分が本当にやりたいことは何か」というお話は生徒が自分自身に向き合うよい契機になったようです。

また、質疑応答の中で出た、「患者が死ぬということ」については、「看護師にとつては無数の死でも本人や家族にとつてはたった一回の死なので、重く受け止めている」という点が生徒の心に重く響いたようです。



木村直樹氏

農業家 川崎麻里氏(44期)

「自然」「農業」「教育」「海外」をキーワードに、青年海外協力隊に参加したアフリカでの生活や経験を交え、「自分を生きる」と題してご講演いただきました。

まず「昔なりたかったものは何か。」と生徒たちに問いかけ、いつも意識して考えておくことの大

切さを話されました。川崎さんは小さい頃から「自然とともに生きたい」と願っていたそうです。そこで、高校卒業後は農学部、青年海外協力隊、高校教員、農業ビジネススクール、農業家と現在までぶれることなく進んでこられました。

「出会いを大切に、逃げずにきちんと向き合う」という熱いメッセージを頂きました。



川崎麻里氏

三重県水産研究所 沿岸資源増殖研究課 主任研究課課長代理 竹内泰介氏(31期)

本校卒業後北海道大学水産学部へ入学。大学内では鯨の研究や微生物の生態系について研究を進めていた。卒業後は研究者を目指すも、大学の考え方に疑問を持ちそれからは自分のやりたい事に悩みながら農業関係の仕事や様々な事に就く。2年後公務員試験を受け、現在の水産研究員として収まる。主な仕事は海流の流れを見て魚の漂流調査、漁獲量制限の指示

といった海に関連した仕事が多い。海に囲まれた島国だからこそ必要な部門だと実感しました。

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 準天頂衛星システム戦略室 小暮聡氏(26期)

人工衛星による研究・開発などの事業が紹介された。宇宙空間という厳しい環境でたいへんな労力を要するが、通信、気象、宇宙観測、実験、資源探査など、それに見合うだけの恩恵があるのだ。

小暮氏が取り組まれた「準天頂衛星システム」は、スマホやカーナビの位置情報や細かな地域の気象情報などを補強する新たな地域的システムとして開発・実用され、さらに、防災の点で非常に大きな役割を担うことが期待されている。衛星を利用して現在置を求める理論等、難解な内容もあったが、宇宙開発がもたらす功績が人類の生活を豊かにしていることを知り、生徒たちの未来に対する希望も大きく膨らんだ。



小暮聡氏

Teaching Practice 教育実習

今年も教育実習が行われました。第54期生の方々に感想をお聞きしました。

村山琴音(化学) 54期

三週間の教育実習は終わってみると、とても短く感じました。生徒の目線では分らなかった授業の行い方、生徒との関わり方など多くのことを学ぶことができました。教員の主な仕事は教科の指導と思っていました。実際は教科の指導はほんのわずかであると学ぶことができました。

体育祭をきっかけに、生徒との関わりも増え、楽しみながら実習を行うことができました。今回、学ばせていただいたことを忘れずに、教員になれるよう努力していきます。指導をしていただいた先生方、授業を受けてくれた生徒の皆さんに感謝の気持ちでいっぱい。ありがとうございました。

西村美奈穂(音楽) 54期

始まるまでは不安が大きかったですが、始まるとあっという間でした。最も実習で悩んだことは、生徒が理解できないことが分からず、それをどう分かりやすく伝えるか、ということでした。先生方の作ったプリントや発問はとても

工夫がされており、刺激を何度も受けました。想像以上に生徒たちが音楽の知識をもっていることに驚きました。

自分が説明しなくても生徒同士で教え合い、問題を解決する姿を間近で見えて大変感動しました。教員は教えることも勿論大切ですが、時には生徒の行動を見守り、働きかけをすることの大切さも実習で学ばせて頂きました。

佐々木亮輔(数学) 54期

「先生、この問題を教えてください！」数年前まで南高生として先生に質問していた私が、今回、実習生として質問に答える立場となり母校に戻ってくることができました。三週間という短い期間でしたが、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。

授業に関しては、なかなか思い通りに進まず、自分の未熟さを痛感しました。しかし、多くの先生方のご指導のもと、少しでも生徒たちに数学の面白さや奥深さを伝えようと考え、全身全霊で授業を行わせていただきました。生徒たちから学ぶことも多く、将来、教

員になるという夢をよりいっそう強くすることができました。

最後に、南高校の先生方、生徒の皆さん、本当にありがとうございました。

荒井七海(家庭) 54期

私は家庭科の教育実習で二週間お世話になりました。実習期間中の一番の思い出は体育祭です。特に担当クラスや授業で関わった生徒の皆さんが真剣な表情でバトンをつなぐ姿に感動で胸がいっぱいになりました。二週間忙しくも有意義な時間を過ごすことができ、実習生としてではなく教員として

教壇に立てるよう学業に励むことが今の自分の務めであると再認識することができました。

高校の三年間はあっという間で、勉強や部活動はもちろんのこと、学校行事に積極的に参加して沢山の仲間とともに一度きりの高校生活を楽しんでください。



左から 村山琴音(化学)、佐々木亮輔(数学)、西村美奈穂(音楽)、荒井七海(家庭)

Club Activities 躍進する部活動

卓球部

本年度の高校総体団体の部では、男子は三回戦に進出、女子は惜しくも一回戦で敗退しました。が、男女とも善戦でした。個人の部では、男女各三名が県大会に出場しました。

多くの新入生を迎え、新チームで始動しました。限られた練習時間の中、工夫した練習で力をつけるべく頑張りたいと思います。ご支援よろしくお願いたします。

電算無線部

電算無線部は、今年度、3年生3名、2年生7名の計10名で活動しています。毎週水曜日に情報室に集まり、新入生に見せる各クラブや、体育祭の紹介ビデオ、また中学生見学会で上映する学校紹介ビデオなどの作成や使用する素材の撮影などを行っております。

文芸部

今年度は部員7名で活動をして

います。4月に1年生を5名迎え、創作活動の幅も広がりました。普段の活動としては、個々に創作活動を行い、部誌作成に取り組み等、自分たちで活動内容を考え、主体的に活動しています。また、県内の文芸部員との交流会や講演会、創作学習会に参加するなど、校外での活動にも積極的に参加しています。今年度も南高祭では部誌を配布、展示予定です。

インターアクト部

インターアクト部は、現在17名の部員で「人のため、世のため」なる社会貢献活動」をスローガンに校内外のボランティア活動を行っています。昨年度は、「四日市まちづくり」イベントやプロボノ活動、中高生防災サミットなどに参加しました。それ以外にも毎年、ロータリークラブ主催のイベント、西日野駅への花プランター設置、四日市あすなろう鉄道を応援する取り組みを行っています。

このような活動を通して、人間

これから教育実習を希望される予定の皆さんへ

教育実習の申し込み期間は、実習年度の前年の4月10日から5月15日です。その間の平日に、事前に総務部と連絡を取り、本人が直接来校して手続きをしてください。

性や社会性を磨いています。これからは積極的にボランティア活動に参画し、自己実現と共に社会のお役に立てればと思っております。

サッカー部

男子サッカー部・女子サッカー部として、それぞれ活動しています。部員数は、男女を合わせると119人になります。比較的短い練習時間、人数に対しては少し狭いコートのみで、自分たちで意見を出し合い工夫しながら練習し、いつも「頭を使ってサッカーをする」と心かげプレーしています。

陸上競技部

今年も多くの新入生が入部し、現在は男女合わせて約45名の部員で活動しています。5月末に開催



陸上競技部

された県高校総体では生徒たちがよく頑張りを、女子やり投げにおいては2年生の高橋さんが4位に入賞し、見事東海大会出場を果たしました。

今年度は東海大会・全国大会ともに伊勢で開催されますが、地元への利を生かして高橋さんの更なる飛躍を祈りたいと思います。

バスケットボール部

今年度は男子部30名、女子部23名で活動しております。今年度は県総体の北地区予選を男女ともに勝ち抜き、県総体に出場しました。男女とも年間3回ほど県外遠征を行い、チームの強化に努めておりますが、他校に比べると、圧倒的に練習する時間、場所が少なく、部員同士が工夫して練習を行っています。

新チームになると男女とも部員の数は半減しますが、更に上位を目指して頑張っていきたいと思います。ご支援よろしくお願いたします。

バドミントン部

北勢地区の中学校には、ほとんどバドミントン部がないため、高校からバドミントンを始めた部員がほとんどです。競技スポーツとしてのバドミントンは、とても激しいスポーツです。バドミントンは風に影響されるので暑い体育館を閉め切って練習しています。小

さな大会でもいいので賞状が取れるよう頑張ります。

バレーボール部

今年度は男子部二十四名、女子部二十二名でスタートしました。五月末の県総体で三年が引退するなどしたので、現在は男子が二二名、女子が十五名です。

限られた時間と場所で、部員が「考え」ながら質の高い練習ができるように努めています。一球を大切に、最後まで粘り強く戦い、県大会ベスト8を目指して努力し続けたいと思います。

ハンドボール部

現在部員は、男子24名、女子24名、計48名で活動をしています。限られた時間と場所で効率よく質の高い練習をきびきびと行い、なおかつ元気よく声を出し楽しんでプレーすることを心がけています。

今年度の高校総体は地元三重インターハイ出場を目指して頑張りましたが、二年連続で男女とも五位入賞という結果で終わりました。新チームは今年の結果を上まわべく努力し続けたいと思います。ご支援よろしくお願いたします。

ワンダーフォーゲル部

3年男子2名・女子4名、2年男子5名、1年男子4名の計15名



ワンダーフォーゲル部

れた持ち味を引き出すことに成功しました。

このミニ劇には、引退した3年生も参加し、駄目出しなどで、2年生を指導しました。今後とも演劇部の活動のご支援をよろしくお願申し上げます。

家庭部

今年度は珍しく少人数の、3年7名、2年6名、1年1名で活動しています。

毎年、南高祭での飲食販売が最大の頑張りどころで、好評もいただいています。今年は人数が少ないので不安ではありますが、できる範囲で頑張りたいたいと思います。

剣道部

剣道部は現在、男子4名、女子5名、合わせて9名で活動しています。今年度の高校総体(三重大会)では、男女とも団体戦に出場することができました。また、個人戦では男子生徒が、三回戦まで勝ち進むことができました。これから「心・技・体」の調和のとれた武道を目指して努力します。ご支援よろしくお願いたします。

硬式テニス部

今年度の高校総体・団体戦は、男子は二回戦敗退、女子は三回戦

囲碁・将棋部

現在部員は、3年男子1名、2年男子4名の計5名で活動をしています。週に2日という限られた時間で質の高い練習対局をしています。今年4月の全国高等学校将棋選手権大会の三重県予選では、2年生の遠藤瑞規さんが男子個人戦で五位に入賞しました。

演劇部

今年度は5名の新人部員を迎え、2年生と併せて6名で活動を始動しました。5月恒例のミニ劇では、2年生の指導により新人部員の隠

敗退という結果となりました。

新一年生が多数入部し、気持ちも新たに元気よく練習しております。練習時間や活動場所に限りがあります。上位入賞を目標に努力を続けていきます。今後ともご支援よろしくお願いいたします。

音楽部

昨年から部員数も二〇名を超え、プレハブの練習場所は毎日厚みのある歌声が響くようになりました。今年の二月に行われたアンサンブルコンテストの県大会には、チームが出場することができ、それぞれ金賞と銀賞を受賞しました。

まだまだ男子部員が少なく、女生合唱を中心の活動を続けています。その中で、技術向上、美しいハーモニーを目指し、合唱講習会



音楽部

や第九演奏会など意欲的に活動を行っています。現在、夏のコンクールに向け、昨年以上の成果を目標に日々練習に励んでいます。

硬式野球部

「意志あるところに道は拓ける」という理念のもとに、甲子園初出場という目標を掲げ、活動しています。「自分自身がどうなりたいか」を明確に持ち、受け身ではなく、その意志を発信することで目標に近づいています。

私たちにしかできない、組織力、戦術、そしてつながり。それらを磨き続けたいと思います。ご支援よろしくお願いいたします。

柔道部

柔道部は今年1年生を4人迎え、現在男子4名、女子2名で活動しています。今年の三重県高校総合体育大会では、男女とも団体戦にも出場することができました。また、個人戦では3年生部長が五位入賞と大健闘、大躍進しました。

精力善用、自他共栄の精神で今後も誠実に取り組んで参ります。

吹奏楽部

3月30日に開催させていただきました第30回定期演奏会には、約1200人のお客様においでいただきました。多くの先輩方のご協

力により無事終了することができました。ありがとうございました。

本年度、27名の新入部員を迎え、部員一同、コンクールやコンテストでベストを尽くし、豊かな音楽を奏でたいと思います。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、平成31年3月24日(日)鈴鹿市民会館にて、第31回定期演奏会を開催します。こちらもよろしくお願い申し上げます。

水泳部

本校のプールが使用できないため、部員は各自スイミングスクール等で県大会に向けて、練習しています。

今年度は、3年生5名と新たに1名の1年生新入部員(女子1名)を迎え、選手6名でスタートしました。現在、個人種目と女子のりレーで東海大会へ出場できるような頑張っておりますので、ご支援よろしくお願いいたします。

放送映画部

今年度は3年生5名で活動しています。主な活動内容は、体育祭での実況放送や文化祭での作品展です。ここ3年間の中学生学校見学会において、放送映画部で作成した南高紹介映像を上映しました。また、海の生物に興味がある

部員で生物採集を行い、採集風景

や生物を撮影しています。

茶道部

今年度は1年14名、2年7名、3年14名の計35名で活動しています。毎週水曜日の放課後、作法室で講師の羽木千松先生に表千家のお点前をご指導いただいております。

毎年南高祭では浴衣姿で立礼棚を用いた茶席を設け、おもてなしをしています。普段は作法室の畳席でお稽古していますが、正座の苦手な方でも気軽に一服していただけるよう椅子席にしております。部員たちの日頃の成果を是非見に来てください。

美術部

現在部員数13名で活動しています。主な活動は年間3回、南高祭・みえ高文祭・北勢地区展等の大きな展示会に向けて制作・展示をおこなっております。それ以外にも夏の合宿活動や身近なモノを活かし自身の発想力を伸ばす活動もしております。

部活を通して自身の目指す夢に向け良い経験と共に、学校生活の思い出作りも部の活動として入れいております。興味があれば是非覗きにきて下さい。

箏曲部

3年生10名、2年生16名、1年

生23名の計49名で、生田流正派大師範の森雅笙先生の熱心なご指導の下、週に三回程度練習しています。

昨年度夏に行われた「三重県高等学校日本音楽演奏会」において優勝し、今年8月8日から行われる第42回全国高等学校総合文化祭長野大会に出場します。

今年度は、8月4日(土)に鈴鹿市民会館で県大会が行われます。七連覇を目指して練習に励んでおります。大勢での合奏は息を合わせるのが大変ですが、日頃の練習の成果が発揮できるよう、頑張っております。

応援のほどよろしくお願いいたします。



箏曲部

ご注意ください！

同窓会名鑑を作成するとうい名目で、調査ハガキが多くの同窓会員に郵送されております。往復ハガキ等で高額な名簿の購入を勧める等の手口です。これらは南高校同窓会とは一切関係はありませんのでご注意ください。正規の同窓会名簿は13年度に発行済みです。

進路状況

今年度卒業生の主な国立大学合格校は、難関大では、名古屋大(6)、北海道大(1)、九州大(1)。(6)、横浜国立大(1)、名古屋工業大(7)、広島大(1)、東京学芸大(1)、愛知教育大(7)、三重大(38)、岐阜大(1)、信州大(5)、静岡大(3)、滋賀大(1)となつています。また、主な公立大学合格校は、岐阜薬科大(1)、首都大東京(1)、名古屋市立大(1)、大阪市立大(1)、神戸市外国語大(1)、愛知県立大(6)、三重県立看護大(6)、です。

学部別の特徴では、「工学」の合格者比率が35.6%(昨年28.0%)と最も高く、例年のことながら本校の大きな特徴となつており、ついで、「教育」が19.7%(昨年14.7%)、「文学・言語・国際・文化」9.1%(昨年13.3%)と「看護」9.1%(昨年8.4%)が同率で並びました。少子化や0免過程廃止の影響を受けて志願者が減少している「教育」で合格者が多いのも、本校の大きな特徴といえるでしょう。また、「看護」の合格者が昨年来増加してきたことも特徴的です。さらに、「農林畜産・生物・生命・環境」8.3%(昨年9.8%)と「経済・経営・商学」5.3%(昨年10.5%)、

平均併願校数は1801 / 285^{#632}校(昨年5.59校)と2年ぶりに増加しました。受験形態別にみると、一般入試型の受験数は延べ1080校(昨年延べ963校)と17校増加。一方、センター型の受験数は延べ校522(昨年540)と昨年若干減少しました。なお、一般入試型にはセンター併用型も含まれており、その数はおよそ170校です。延べ受験校数1801校中何らかの形でセンターを利用しているものは、およそ690校、38.3%と高い割合を示しています。各大学がセンターを利用した受験方式や併願パターンを多様化させており、受験料の割引や、減額制度も拡大させています。

私立4年制大学の延べ受験校数は1801校、受験者数は285名で、が昨年と逆転しました。全国的に文高理低と言われて数年経ちましたが、本校では理高文低と言われていた頃より文系学部への人気が根強く、今年も同様でした。ついで、「政治・法律」3.0%(昨年7.2%)と「社会・福祉・心理」3.0%(昨年0.8%)が同率となりました。私立大学に比べて国立大学は、教育、就職環境に優れているため、多くの生徒が全国を視野に入れて出願を行っています。今年度は、センター試験受験者数が昨年より6名増加して305となり、国立延べ受験件数が1件増加して359となりました。国立延べ受験件数は昨年一気に54件増加しましたが、今年もその傾向を継承したと言えるでしょう。本校生徒は、全国的視野を持ち前期日程から幅広く志望校を考え、中・後期日程においても2次学力を考慮しながら慎重な出願を行いました。卒業式を終えた後も小論文指導や面接指導などの2次対策に登校し、最後まであきらめず中・後期日程まで粘り強く受験することで合格を得られた生徒も多くいました。

した。平均併願校数は1801 / 285^{#632}校(昨年5.59校)と2年ぶりに増加しました。受験形態別にみると、一般入試型の受験数は延べ1080校(昨年延べ963校)と17校増加。一方、センター型の受験数は延べ校522(昨年540)と昨年若干減少しました。なお、一般入試型にはセンター併用型も含まれており、その数はおよそ170校です。延べ受験校数1801校中何らかの形でセンターを利用しているものは、およそ690校、38.3%と高い割合を示しています。各大学がセンターを利用した受験方式や併願パターンを多様化させており、受験料の割引や、減額制度も拡大させています。

受験のべ1801校中の総合合格数は733校であり、合格率は733 / 1801^{#40.7}%でした。全合格数に占める学部別の割合を見ると、「工学」が24%と最も多く、「文学・言語・国際・文化」の22.1%とほぼ並んでトップに位置しています。ここ数年、本校では年度によって入れ替わることがありますが、この2つの系統が上位2位を占めています。ついで「経済・経営・商」(10.9%)が第3位となっています。景気回復や就職状況の改善を背景にした全国的な「文高理低」傾向がここ4年続いています。が、昨年に続き今年もこの系統の人気

が高かったようです。次に「理学」(6.3%)、「政治・法」(5.7%)、「社会・福祉・心理」(5.7%)と続き、さらに「看護」(5.3%)、「薬」(5.2%)、「教育」(5.0%)となっています。このあたりは本校生の社会貢献に対する意欲が伺える学部系統でしょう。最後に「家政」(3.0%)、「農・林・畜産・生物・生命・環境」(2.9%)、「医学・医療」(2.3%)、「芸術」(1.0%)、「体育」(0.1%)となりました。

合格数の最も多かった「工学」系の大学別合格数を見てみると、名城大が39と最も多く、ついで千葉工業大が27と続いています。この千葉工業大については、昨年末では合格数上位に現れたことが全くありません。合格数は多いのですが実受験者数は数名です。他学科との併願や複数日受験の受験料を割り引くことで併願受験数を増やし、全国的にも話題になりました。続いて愛知工業大19、大同大18、中京大15、中部大13と中部圏の大学が続いています。中部圏以外で例年合格数が多い立命館大は今年12件の合格がありました。さらに、金沢工業大10、関西大6、芝浦工業大6、同志社大3、近畿大3と続いています。南山大の工学系は今年の合格は1でした。



(進路指導部 服部圭一)

2018年度入試 大学等合格者数 (過年度生含む)

大学名	合格
帯広畜産	1
北海道	1
室蘭工業	3
東京	1
東京学芸	1
横浜国立	1
上越教育	1
富山	3
福井	8
山梨	1
信州	5
静岡	3
愛知教育	7
名古屋	7
名古屋工業	8
岐阜	1
三重	40
滋賀	1
京都	1
奈良教育	1
奈良女子	1
鳥取	1
広島	3
徳島	1
愛媛	1

大学名	合格
九州	1
九州工業	1
佐賀	1
長崎	1
国立大学計	106
高崎経済	2
前橋工科	3
首都大学東京	1
公立小松	2
金沢美術工芸	1
都留文科	1
岐阜薬科	1
静岡県立	1
静岡文化芸術	2
愛知県立	6
名古屋市立	1
三重県立看護	6
滋賀県立	1
京都府立	1
大阪市立	1
神戸市外国語	1
兵庫県立	1
公立鳥取環境	1
岡山県立	1
尾道市立	1

大学名	合格
下関市立	2
高知工科	1
熊本県立	1
公立大学計	39
文教	1
神田外語	1
千葉工業	27
帝京平成	1
青山学院	2
北里	3
慶應義塾	4
駒澤	1
芝浦工業	6
創価	1
大東文化	1
中央	2
帝京	1
東海	3
東京工科	2
東京農業	1
東京理科	3
桐朋学園	1
日本	4
法政	4
明治	1

大学名	合格
明治学院	1
立教	1
早稲田	1
新潟薬科	1
金沢工業	11
北陸	3
岐阜聖徳学園	3
静岡理工科	1
修文	1
名古屋学芸	5
愛知	49
愛知学院	14
愛知工業	19
愛知淑徳	24
金城学院	16
椋山女学園	18
大同	18
中京	104
至学館	2
中部	21
同朋	1
名古屋外国語	39
名古屋学院	6
名古屋女子	11
藤田保健衛生	5

大学名	合格
南山	50
日本福祉	4
名城	100
東海学園	2
名古屋文理	5
人間環境	2
皇学館	18
鈴鹿医療科学	31
鈴鹿	1
四日市看護医療	13
長浜バイオ	1
京都産業	1
京都女子	3
京都薬科	2
京都橘	2
同志社	10
立命館	31
龍谷	3
大阪工業	2
大阪薬科	1
関西	9
近畿	19
関西医療	3
関西学院	4
神戸薬科	1

大学名	合格
兵庫医療	1
神戸常盤	1
岡山理科	2
徳島文理	1
立命館アジア太平洋	3
私立大学計	771
三重短大	6
愛知学院大短大部	1
名古屋女子大短大部	1
短期大学計	8
防衛大学校	2
気象大学校	1
防衛医科大学校	1
名古屋製菓	1
名古屋子ども専門学校	1
名古屋ビジュアルアーツ	2
ベルエポック美容専門学校	1
大阪ベビィ動物看護専門学校	1
四日市医師会看護専門	1
一般曹候補生	1
自衛官候補生	1
専門学校等計	13



現在の勤め先(お仕事)、近況についてお聞かせください。

現在は、桑名西高校で進路指導部に所属しており、今年で3年目を迎えています。部活動は、体育の授業でしか経験のないサッカー

南高校及び南高生、同窓会生にご助言、メッセージをお願いします。南高生としての誇りを胸に、謙虚で社会に貢献する人になってください。

最後の3年間は学年主任として学年団に所属していました。部活動ではハンドボール部を担当し、充実した13年間で大変お世話になりました。

部活動では、男子ハンドボール部が、2007年・2008年と2年連続で東海大会に出場したことが印象深く残っていますが、東海大会出場に向けて取り組んだ2011年度東海選手権県予選に

関係ができ、出会いに感謝しています。選では主力が入院となるアクシデントにより4位という結果に終わったことは残念でしたが、皆さんの思い出をいただきました。何より、未だに連絡を取り合う

南高校には平成15年4月に赴任し、担任として8年、生徒会2年、最後の3年間は学年主任として学年団に所属していました。部活動ではハンドボール部を担当し、充実した13年間で大変お世話になりました。

担任・主任として11年間かかわった生徒や生徒会としてかかわった執行部の一人一人が印象深く、言葉では表すことができません。

おいて、得失点により3位で出場を逃し、2012年高校総体県予選では主力が入院となるアクシデントにより4位という結果に終わったことは残念でしたが、皆さんの思い出をいただきました。何より、未だに連絡を取り合う

先生お元気ですか？
長年本校に勤務され、退職または転勤された先生方にアンケート形式の質問に答えていただきました。
村上真司 先生



